

令和6年度公衆衛生活動対策専門委員会

■ 日 時 令和7年2月13日(木) 午後3時30分～午後4時35分

■ 場 所 テレビ会議 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
鳥取県中部医師会館 倉吉市旭田町
鳥取県西部医師会館 米子市久米町

■ 出席者 18人

〈鳥取県健康会館〉

清水健対協会長、辻田委員長

岡田・加藤・廣岡・川本・山本・米本各委員

岡本事務局長、岩垣次長、井上・廣瀬両主事

〈鳥取県中部医師会館〉福嶋・深田・池山各委員

〈鳥取県西部医師会館〉能勢・尾崎・佐々木各委員

挨拶（要旨）

〈清水会長〉

本日の会議にお集まりいただき感謝申し上げます。本委員会では地域住民に広く医療や健康等に関して、啓発していくことを主な目的としている。コロナ禍でしばらく休止していた県民向けの公開健康講座や地域の公民館や学校での講演等が再開され、徐々に参加者数も増えてきている。本日は、昨年度、今年度の公衆衛生活動の振り返りとともに、来年度の方針について、活発な議論をお願いしたい。

報 告

1. 令和5年度事業報告及び令和6年度事業中間報告

(1)健康教育事业：辻田委員長より説明

①日本海新聞健康コラム「保健の窓」は公開健康講座の講演内容について掲載しており、令和5年度は5月から公開健康講座が再開され、計12回掲載した。令和6年度は1月までに10回を開

催し、「保健の窓」も1月末までに10回掲載している。

②日本海新聞健康コラム「健康相談室鳥取県医師会Q&A」を、令和5年度は22回、令和6年度は1月末現在20回掲載した。

一般の方から疾病に関する質問を受け付け、それに対する回答を掲載している。

③鳥取県医師会公開健康講座、生活習慣病対策セミナー

令和5年度は鳥取県医師会公開健康講座を5月から再開した。9月からは開催週を第1木曜日に変更し、計11回開催した。なお、鳥取県の委託事業である「生活習慣病対策セミナー」については、鳥取県医師会公開健康講座のうち7回を生活習慣病セミナーにあて、中部地区で1回、西部地区で3回、同様のセミナーを開催した。よって年11回の開催であった。

令和6年度は令和7年1月までに10回開催し、来場者もコロナ禍前並みの人数に戻ってきている。生活習慣病対策セミナーについては令和6年度も7回をあてている。地区医師会で

は、中部医師会で3月に開催予定、西部医師会で12月までに2回開催している。

(2) 地域保健対策

令和2年度から、鳥取大学医学部環境予防医学分野の尾崎米厚教授を中心に、鳥取県特有のがんリスク要因の究明を目的として、5つのがん（胃、肺、乳、肝、膵）を対象とした「鳥取県がん症例対照研究」を行った。県内のがん患者及び健常者に対するアンケート調査を実施し、がん予防に活用できる知見を得るための分析を行った。

対照群（健常者）は市町村で実施しているがんの集団検診会場で調査。目標は1,000例。対照群については、令和5年度でアンケート調査は終了し、後ろ向きコホート研究は疾病構造の地域特性対策調査研究費にて継続されている。

(3) 生活習慣病対策事業

① 地区における健康教育

〈東部医師会〉

1. 東部医師会健康スポーツ講演会を令和5年度は令和6年3月14日にハイブリッド形式で開催した。令和6年度は令和7年3月12日に開催予定である。
2. 各会員による健康教育講演を令和5年度は25回、令和6年度は12月までに28回行った。公民館、小学校、中学校、保健センターを会場として開催されている。依頼者が鳥取市から配付されたリストから講師を選ぶ方式を取っており、講師に偏りが見られる。

〈中部医師会〉

1. 「住民健康フォーラム」について、令和5年度は10月15日に岡山大学大学院の芦田耕三教授と三朝温泉病院理学療法士の明星雅人氏にご講演いただき、フレイルをテーマにして行った。令和6年度は9月1日に予定していたが、台風の影響により中止となった。
2. 会員による健康教育講演を令和5年度は32回、令和6年度は1月までに14回行った。がんや動脈硬化の話、学校での薬物やたばこの依存症の話を中心に行っている。

〈西部医師会〉

1. 健康教育講座を地域の公民館などで令和5年度は17回、令和6年度は24回行った。
2. 毎月第3木曜日に米子市文化ホールで開催していた「一般公開健康講座」を令和5年5月から再開し11回開催、令和6年度は12月までに9回開催した。
3. 会員による健康教育講演を令和5年度は26回行った。
4. 中海テレビで医師の出演による「健康プラザ（5分番組）」が毎月放映されている。

② 健康医療相談

鳥取県健康会館において、面談による健康医療相談を毎月第1～4木曜日に行っている。第1木曜日は精神科、第2及び第4木曜日は内科、第3木曜日は整形外科で実施している。令和5年度は計34件、令和6年度は1月末までに計25件の相談があった。

2. 令和7年度事業計画（案）

(1) 健康教育事業

- ① 日本海新聞健康コラム「保健の窓」を年間12回掲載続行予定。
- ② 日本海新聞健康コラム「健康相談室鳥取県医師会Q & A」を木曜日（月2回）に掲載継続予定。
- ③ 鳥取県医師会公開健康講座、生活習慣病対策セミナー継続開催。

(2) 地域保健対策

他の部会に当てはまらない研究等を検討中。

〈意見等〉

- ・がん以外の循環器疾患やロコモティブシンドロームやフレイルなどはどうか

(3) 生活習慣病対策事業

地区医師会の健康教育、健康医療相談を継続実施。

〈質疑・意見〉

- ・健康医療相談について、実施主体が鳥取県医師会であれば東部地区だけでなく、県全体で開設を検討してはどうかという意見があった。

相談者は東部地区の方が主で、美方郡や東部以外の方もわずかにいる。担当の医師の確保も難しいということもあるが、住民の方々に医療に関する疑問などを気軽に相談できる場所が医師会館の中になった方が良いと思うので、今のところ現状通り継続していきたい。コロナ禍以降、相談者は減っているので体制については、今後検討していきたい。

- ・西部では公開健康講座等を地元のケーブルテレビで放映していただいている。他地区の現状についてはどうかという質問があった。

東部では医師会が窓口になっていないが、放

送局が直接、医師に依頼して番組を制作している。中部では数年前に実施したことはあるが、放送エリアに制限があり数回の実施となった。

- ・生活習慣病セミナーを鳥取県医師会と各地区医師会に予算を振っており、コロナ以降開催していない地区もあるので、開催を再開していただきたいという話があった。
- ・日本海新聞に掲載されている「保健の窓」や「健康相談室鳥取県医師会Q & A」を冊子状にまとめて、配布することを検討していただきたいという意見があった。